

「日本・シンガポール観光交流年」における事業の実施について

国土交通省

2006年は日本・シンガポール外交関係樹立40周年の年に当たるため（外交関係樹立は1966年4月26日）、以下のとおり、かかる記念すべき節目の年を「日本・シンガポール観光交流年」と定め、両国が密接に協力して観光交流の拡大に向けた施策を展開することとする。



1. 「日本・シンガポール観光交流年」の設定

さらなる二国間観光交流の促進を図るため、2006年を「日本・シンガポール観光交流年」として設定し、相互の観光交流を促進する事業を展開する。

その際、共通のロゴマークを設定し、各種事業や旅行会社のツアーパンフレットにおいて使用するものとする。また、共通の観光交流促進ポスターを作成する。

2. 交流事業等の共同・協力実施

シンガポールで開催されるVJC事業、日本で開催されるSTB（シンガポール政府観光局）事業について、両国の観光関係者が共同・協力して実施し、両国民の観光交流に向けた機運を高める。

- (1) シンガポール側は、4月8日～14日に東京において、シンガポールの食べ物と文化を紹介するイベント：「Singapore Food & Culture Festival」を開催し、これを観光交流年のキックオフイベントとする。
- (2) 日本側は、5月4日（予定）に開設予定の国際観光振興機構シンガポール事務所の開設に併せ、5月の第1週にシンガポールにおいて、民間関係者の協力を得つつ、日本の観光魅力を紹介するイベント：「シンガポール Japan Festa（仮称）」を行う。

3. 観光交流年記念モニターツアーの実施

観光交流年を記念し、低廉なツアーを造成し、両国民の交流を促す。

例えば、日本側は冷涼な夏の北海道のドライブツアー、シンガポール側はバラエティに富んだ「食」を紹介するツアーを実施する。

4. 観光交流年広報大使の任命

両国で、日本でも有名なシンガポール人歌手であるディック・リー氏を日本・シンガポール観光交流年広報大使に任命し、相互交流のシンボルとしてイベント、ポスター等を通じてPRをしてもらう。

5. 交流促進のためのソフトインフラの充実

自国への送客増に資するスペシャリストを養成するため、相手国の旅行会社の商品造成担当者等を対象にした相手国での研修や自国への視察旅行を積極的に実施し、旅行会社社員の企画力・販売力の強化を図っていく。

6. 青少年交流の拡大へ向けた取組み

相互の青少年交流を拡大するため、他方の国において教育旅行にかかるセミナーの開催、ガイドブックの作成・配布などを行う。

特に日本側は、日本からの教育旅行を受け入れる学校に対し、日本への誘致を図り、学校間の相互交流を促す。

また、日本、シンガポールの小中学生を対象に相互に招請を行う「日本見つけ隊・シンガポール見つけ隊」と称する交流事業を実施し、その体験記、写真等をウェブサイトや新聞等に公表する。

7. 写真コンテストの実施

旅行者が撮影した、相手国の人々との交流や両国の観光資源をテーマにした写真のコンテストを実施し、イベント等での活用やウェブサイト等に掲載を行う。